



横浜港 港湾計画

Port of YOKOHAMA

平成26年12月改訂



横浜港港湾計画とは

- 横浜港を計画的に開発・利用・保全するため、港湾管理者である横浜市が港湾法に基づいて定める基本的な計画です。
- 社会情勢や横浜港を取り巻く環境の変化を踏まえ、平成30年代後半を目標年次とする貨物量や施設の規模、配置等を定めています。

横浜市港湾局

港湾計画の方針

横浜港は「国際競争力のある港」、「市民が集い、憩う港」及び「安全・安心で環境にやさしい港」を3つの柱とし、横浜経済の活性化と市民生活を豊かにする総合港湾づくりを目指していきます。

1. 国際競争力のある港

- 国際コンテナ戦略港湾として、基幹航路の維持・拡大、近海航路の更なる拡充に向けて、コンテナ船の大型化やアジアを中心とした世界の貨物量の増加などの海運動向に的確に対応し、コンテナふ頭の再編・強化や先進的な施設整備を進めます。併せて大水深・高規格コンテナターミナルと高度な流通加工機能を有するロジスティクス施設を一体的に配置した新たなふ頭を計画し、臨海部における物流拠点を形成します。
- 横浜港の主力取扱貨物である完成自動車をはじめ、コンテナ以外の一般貨物を効率的に取扱えるよう、ふ頭の機能転換や集約を進めます。
- 増大する港湾物流に対応するため、広域道路ネットワークと臨港道路を接続し、貨物集荷力を強化するとともに、ふ頭間の円滑な交通を確保します。

2. 市民が集い、憩う港

- 我が国を代表するクルーズポートとして、客船の大型化や寄港増加に対応し、賑わいの創出を図ります。
- 物流機能の沖合展開など利用形態の変化が生じている内港地区において、土地利用を転換し、新たな賑わい拠点づくりを進めます。
- 市民や来街者への身近な親水空間の提供や海洋性レクリエーション需要に対応するため、開かれたウォーターフロントの形成を進め、地区の特性を活かした快適で魅力ある親水空間を創出します。

3. 安全・安心で環境にやさしい港

- 発災時に市民生活や経済活動を支える拠点として、横浜港の防災機能を強化し、災害に強い港づくりを進めます。
- 親しみやすく美しい横浜港を次世代へ引き継ぐため、緑地の確保、水質環境の改善、地球温暖化対策など環境保全の取組を推進します。

主な検討経緯

平成24年

8月29日 横浜市港湾審議会*【改訂の進め方等】

平成25年

10月29日 横浜市港湾審議会【検討状況等】

11月11日 パブリックコメントの実施

～12月10日

平成26年

9月24日 横浜市港湾審議会【改訂案】

11月14日 国土交通省交通政策審議会港湾分科会*

12月15日 横浜港港湾計画改訂の公告



本牧ふ頭の全景

*横浜市港湾審議会とは、横浜港港湾計画等に関する重要事項を審議するため、港湾法に基づき横浜市が設置した審議会

*交通政策審議会港湾分科会とは、港湾分野の重要事項を審議するため、国土交通省設置法に基づき国土交通省が設置した審議会の分科会

横浜港の目指すべき姿

1. 国際競争力のある港

- 公共ふ頭計画
- 臨港交通施設計画
- 国際コンテナ戦略港湾の実現に向けた施策展開



先進的な施設整備が進む
南本牧ふ頭

2. 市民が集い、憩う港

- 旅客船ふ頭計画
- 山下ふ頭の再開発
- 臨海部における賑わい創出

横浜経済の活性化と
市民生活を豊かにする
総合港湾づくり

3. 安全・安心で 環境にやさしい港

- 大規模地震対策施設
- 環境保全
- 港のスマート化



客船寄港で賑わう象の鼻パーク
(提供：横浜港振興協会)



海の公園・アマモ場の再生

目標貨物量



コンテナターミナルの風景

■ 目標年次(平成30年代後半)における取扱貨物量

	取扱貨物量	うちコンテナ貨物量
外 貿	11,970万トン	7,250万トン (470万TEU)
内 貿	4,760万トン	530万トン (50万TEU)
合 計	16,730万トン	7,780万トン (520万TEU)
(参考) 平成25年	11,917万トン	4,205万トン (289万TEU)

※推計の目標年次は平成37年

※TEU:Twenty-foot Equivalent Unit(コンテナの数量を20フィートコンテナに換算する場合の単位)

1. 国際競争力のある港

■ 公共ふ頭計画

《我が国を代表する国際貿易港として、市民生活や日本経済を支えています》

【コンテナふ頭】

- 世界の海運動向や利用者ニーズを踏まえ、コンテナ船の大型化や、貨物量の増加に対応していきます。
- 先進的な施設整備や既存施設の再編を進め、コンテナ取扱機能を強化します。[南本牧ふ頭、本牧ふ頭BC突堤]
- 本牧沖に新たなふ頭を計画し、大水深・高規格コンテナターミナルやロジスティクス施設を一体的に配置します。[新本牧ふ頭]

【一般貨物ふ頭】

- 主力輸出品目である完成自動車など、一般貨物を効率的に取り扱えるようふ頭機能の転換や強化を行います。
- [大黒ふ頭、本牧ふ頭A突堤]



新本牧ふ頭のイメージ



大黒ふ頭・自動車運搬専用船

■ 臨港交通施設計画

《港と広域道路ネットワークを円滑に結び、物流機能を向上させます》

広域道路ネットワークの整備が進む中、将来にわたって発生する物流交通を円滑に処理するため、ふ頭間の連絡機能を強化するとともに市街地への流出を抑制します。

■ 国際コンテナ戦略港湾の実現に向けた施策展開

《ハード施策とあわせたソフト施策を展開します》

官民が一体となって取り組み、使いやすい港づくりをハード・ソフト両面から推進します。

■ 貨物集荷策の展開

航路新設・強化や、内航・鉄道等の利用促進も含めた民間事業者の貨物集荷に対する支援、ロジスティクス機能の強化

■ 港湾利用コストの低減

戦略的で柔軟な貸付料の設定、横持輸送費用の低減に向けた取組

■ 利便性向上策の展開

施設の一体利用の促進、IT化の推進、陸上輸送の効率化

■ 戦略的なポートセールスの実施

船会社、荷主等への国内外での戦略的なポートセールス

■ 就業環境の向上策

港湾労働者の通勤利便性の向上など、職場環境改善に向けた取組



ロジスティクス施設・横浜港国際流通センター
(大黒ふ頭)

2. 市民が集い、憩う港

■ 旅客船ふ頭計画

《日本の海の玄関口として、多くのお客様をお迎えます》

我が国を代表するクルーズポートとして、客船の受入機能を強化します。本牧ふ頭A突堤で、ベイブリッジを通過できない超大型客船に対応していきます。

[大さん橋ふ頭、新港ふ頭、本牧ふ頭A突堤]



クルーズ出航セレモニー



大さん橋に停泊する大型客船

■ 山下ふ頭の再開発

《都心臨海部の機能強化に向け、再開発を進めます》

物流主体の土地利用を見直し、市街地との近接性など優れた立地特性を活かした新たな賑わい拠点の形成に向けて取り組みます。

大規模で魅力的な集客施設などの導入が可能となる土地利用へ転換するとともに、山下公園との連続性を考慮した緑地やプロムナードを配置します。



山下ふ頭の全景

■ 臨海部における賑わい創出

《世界に誇るウォーターフロントを実現します》

レクリエーション等活性化水域を中心に、水上交通や観光船の充実、カヌーやシーカヤックなどの様々な活動やイベントを促進します。

水際線緑地の活用や周辺施設との回遊性を強化することにより、水域と緑地の一体的利用による相乗効果を生み出すとともに、新たな賑わいを創出します。



新港地区の全景



横浜ベイサイドマリナー



汽車道の緑地



赤レンガパークや水辺のイベント風景



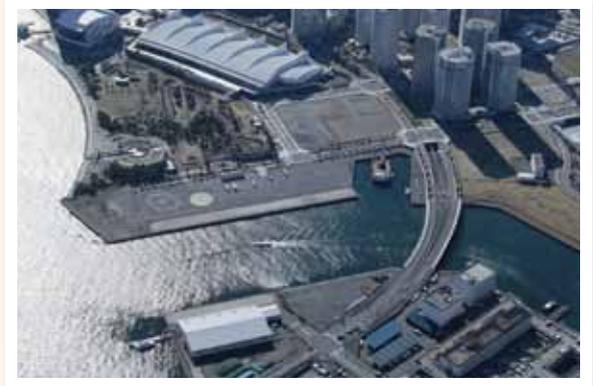
3. 安全・安心で環境にやさしい港

大規模地震対策施設

《発災時に市民の皆様の安全と生活を守ります》

緊急物資の受入を行う海上輸送の拠点として、耐震強化岸壁を適切に配置します。

発災後も国際物流機能を維持できるように、大型コンテナ船が着岸できる水深16m以上の岸壁を耐震強化します。



内港地区の耐震強化岸壁

環境保全

《親しみやすく美しい横浜港の環境を次世代に引き継いでいきます》

市民の皆様や企業などと協働し、水質改善や緑地の維持管理、温暖化対策などに取り組んでいきます。

自然的環境を整備又は保全する区域を中心に、藻場の育成やアマモ場の再生など多様な生物が生息する水辺環境を創出します。[内港地区、金沢地区]



臨港パーク



水質改善の取組(夢ワカメワークショップ)



海の公園・アマモ場

港のスマート化

ふ頭における一括受電の導入、災害時等の事業継続性確保に向けた太陽光発電や蓄電池等の導入、エネルギーマネージメントの構築等を検討し、港のスマート化を進めます。



ふ頭のLED照明



環境配慮型タグボート(ハイブリッド船)



港のスマート化のイメージ